



シラバス参照

タイトル「2014年度 経済学部シラバス」、フォルダ「2014年度 経済学部シラバス-専門科目(基礎専門科目)」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	マクロ経済学																																																																			
担当教員	荒井 信幸																																																																			
対象学年		クラス	E1																																																																	
講義室		開講学期	前期																																																																	
曜日・時限	月4,水4	単位区分																																																																		
授業形態	講義	単位数	4																																																																	
準備事項																																																																				
備考	標準履修年次 2・3年生																																																																			
科目名(英語表記)	Macroeconomics																																																																			
開設学科	経済学科																																																																			
研究室	本館棟 E-409																																																																			
オフィスアワー																																																																				
授業の概要	マクロ経済学の体系を学びます。授業はできるだけ教科書に沿って進めていきます。基礎理論とあわせて、日本や海外の実際の経済データを見て行くことで、現実を見る目も養って行きます。																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>16</td><td>IS曲線(2)</td></tr> <tr><td>2</td><td>マクロ経済の計測</td><td>17</td><td>金融政策とフィリップス曲線(1)</td></tr> <tr><td>3</td><td>経済成長の概観</td><td>18</td><td>金融政策とフィリップス曲線(2)</td></tr> <tr><td>4</td><td>生産のモデル(1)</td><td>19</td><td>安定化政策とAS/AD分析(1)</td></tr> <tr><td>5</td><td>生産のモデル(2)</td><td>20</td><td>安定化政策とAS/AD分析(2)</td></tr> <tr><td>6</td><td>ソロー・モデル(1)</td><td>21</td><td>世界金融危機と短期モデル</td></tr> <tr><td>7</td><td>ソロー・モデル(2)</td><td>22</td><td>消費行動</td></tr> <tr><td>8</td><td>アイデアと経済成長(1)</td><td>23</td><td>投資行動</td></tr> <tr><td>9</td><td>アイデアと経済成長(2)</td><td>24</td><td>政府とマクロ経済</td></tr> <tr><td>10</td><td>労働市場・賃金および失業</td><td>25</td><td>国際貿易</td></tr> <tr><td>11</td><td>インフレーション</td><td>26</td><td>為替レートと国際金融</td></tr> <tr><td>12</td><td>中間試験</td><td>27</td><td>有効需要と国民所得の決定</td></tr> <tr><td>13</td><td>短期分析へのイントロダクション</td><td>28</td><td>貨幣需要、LM曲線とIS/LM分析</td></tr> <tr><td>14</td><td>世界金融危機とその後の不況</td><td>29</td><td>財政金融政策とマンデル・フレミングモデル</td></tr> <tr><td>15</td><td>IS曲線(1)</td><td>30</td><td>まとめ</td></tr> </tbody> </table>	回	内容	回	内容	1	イントロダクション	16	IS曲線(2)	2	マクロ経済の計測	17	金融政策とフィリップス曲線(1)	3	経済成長の概観	18	金融政策とフィリップス曲線(2)	4	生産のモデル(1)	19	安定化政策とAS/AD分析(1)	5	生産のモデル(2)	20	安定化政策とAS/AD分析(2)	6	ソロー・モデル(1)	21	世界金融危機と短期モデル	7	ソロー・モデル(2)	22	消費行動	8	アイデアと経済成長(1)	23	投資行動	9	アイデアと経済成長(2)	24	政府とマクロ経済	10	労働市場・賃金および失業	25	国際貿易	11	インフレーション	26	為替レートと国際金融	12	中間試験	27	有効需要と国民所得の決定	13	短期分析へのイントロダクション	28	貨幣需要、LM曲線とIS/LM分析	14	世界金融危機とその後の不況	29	財政金融政策とマンデル・フレミングモデル	15	IS曲線(1)	30	まとめ			
回	内容	回	内容																																																																	
1	イントロダクション	16	IS曲線(2)																																																																	
2	マクロ経済の計測	17	金融政策とフィリップス曲線(1)																																																																	
3	経済成長の概観	18	金融政策とフィリップス曲線(2)																																																																	
4	生産のモデル(1)	19	安定化政策とAS/AD分析(1)																																																																	
5	生産のモデル(2)	20	安定化政策とAS/AD分析(2)																																																																	
6	ソロー・モデル(1)	21	世界金融危機と短期モデル																																																																	
7	ソロー・モデル(2)	22	消費行動																																																																	
8	アイデアと経済成長(1)	23	投資行動																																																																	
9	アイデアと経済成長(2)	24	政府とマクロ経済																																																																	
10	労働市場・賃金および失業	25	国際貿易																																																																	
11	インフレーション	26	為替レートと国際金融																																																																	
12	中間試験	27	有効需要と国民所得の決定																																																																	
13	短期分析へのイントロダクション	28	貨幣需要、LM曲線とIS/LM分析																																																																	
14	世界金融危機とその後の不況	29	財政金融政策とマンデル・フレミングモデル																																																																	
15	IS曲線(1)	30	まとめ																																																																	
到達目標	経済の長期的成長や景気の変動、金融危機など重要な経済問題について、最新のマクロ経済理論を踏まえながら、理解できるようになること。																																																																			
成績評価方法	中間試験(40%)・期末試験(60%)。試験は持ち込み不可。																																																																			
教科書	チャールズ I. ジョーンズ(2011)『マクロ経済学(第I巻)、(第II巻)』(東洋経済新報社)																																																																			

参考書	宮川努・滝澤美帆(2011)『グラフィック マクロ経済学 (第2版)』新世社、浅子和美・加納悟・倉澤資成『マクロ経済学 (第2版)』新世社 ※その他、講義の中で紹介します
授業時間外学習	第1回目の授業で配布するシラバスに教科書や参考文献の関連部分を指定します。教科書は必ず入手し、講義に先立って指定された部分を1時間半程度予習してください。また授業中に練習問題を出しますので、復習を兼ねて、最低でも30分以上は勉強して下さい。
受講を推奨する関連科目	ミクロ・マクロ経済学入門を受講済みであること。ミクロ経済学を事前に受講していることが望ましい。
履修上の注意・メッセージ	第1回目の授業で詳しいシラバスを配布し、授業の進め方について重要な説明をします。必ず出席して下さい。練習問題は必ず解いて、次回の授業に配布プリントとともに持参してください。

